

# 学 校 紹 介

西米良村立西米良中学校 新名 博

## 1 はじめに

西米良村は古来、日向の国に属し、1501（文亀元）年、隈府城主菊池氏が入山、その後400年もの間、菊池氏によって統治されてきました。「須らく浩然の気を養い、須らく天下の魁となすべし（日頃から何事にも屈せず、たゆまない剛健の気を養い、天下国家を導く先陣となる努力をする）」としたその教えは、現在も「菊池の精神」として村民の心に受け継がれています。

本校は、村で唯一（村所小学校と）の小中一貫校です。生徒は25名で、部活動は剣道部とソフトテニス部があります。タブレットを活用した授業への参加はお手の物の生徒たちですが、11月末～12月中旬にかけては、国の重要無形民俗文化財である「米良の神楽」が4社で舞われ、本校の生徒が中心となる舞も見事なものです。



## 2 本校の特色ある取組

### (1) 「ふるさと西米良学」の推進

本村は、“カリコボーズと1000人が笑う村”というキャッチコピーのもと、村民と一丸となって村のPRに励んでいます。さらに中学生は、昨年度まで実践してきた各学年度での「ふるさと西米良学」の体験活動に加え、今年度より宮崎大学と連携した「探究活動」を取り入れ、持続可能な西米良村を築いていくために、生徒一人一人が主体的に、具体的な取組や発信をしていくようにしています。これには、あらゆる職種に携わる村民の方々の協力があり、活動の支えになっています。なお、中学校の修学旅行は、友好都市である岩手県遠野市の中学校を訪問したり大都市と地元の生活を比較し課題や良さを発見したりするために、村の補助を受け、充実した3泊4日の東北・東京への修学旅行となっています。

### (2) 教育の情報化とICTの効果的な活用推進

本村では、授業等におけるICTの効果的な活用を図るために、西米良村小中合同のスタイルで主題研究を進めています。さらには、環境及び教育実践（研究公開）に村教育委員会が加わり全面的なサポートがあります。その代表的なのが1人2台端末による学校と家庭を密につないだ確実な学びの定着です。その他にも、合同研修においてICTの操作研修、情報モラル研修、授業研究会や実践報告会、リーディングDXスクール事業への参加など主体的・協働的に学び合うことのできる生徒の育成を図っています。



## 3 おわりに

学校の教育目標は「自ら考え、人とつながり、人を大切にする生徒の育成」です。先進的なノウハウだけでなく、これまで縁のあった多くの方々やこれからつながる多くの方々との出会いをプラスに捉えながら、自分の行動をセルフマネジメントできる生徒の育成をこれからも進めていきます。